

学校関係者評価報告書

(平成30年度)

令和1年5月

学校法人伊藤学園

専門学校甲府医療秘書学院

専門学校甲府医療秘書学院 学校関係者評価委員会

委員	長	今井立史	(山梨県医師会会長)
委員		島田和哉	(日本耳鼻咽喉科学会 山梨県地方部会副会長)
委員		太田道夫	(山梨県医師会会員)
委員		佐藤健司	(山梨県医師会会員)
委員		七沢久子	(山梨県歯科医師会会員)
事務局		大久保幹雄	(名誉校長)
事務局		篠原豊明	(学校長)
事務局		伊藤祐寛	(伊藤学園理事長) (山梨県専修学校各種学校協会会長)
事務局		曾根哲哉	(伊藤学園法人事務局長)
事務局		遠藤智加子	(顧問)
事務局		矢野泰宏	(教頭)

1 教育目標と教育目標に対する評価・意見

「自主性と研究心に富み、優しく思いやりのある礼儀正しい医療秘書の育成」
 「情報の高度化にともなう情報処理、事務処理などの技能を身につけた医療秘書の育成」

- ・学校の自己評価については、適正な評価だと思います。
- ・学校の基本方針、学校運営の取り組みなど適切に行われていると思います。
- ・おおむね学校目標に則って学校運営がされており、評価基準においても適切に評価されていると思われます。
- ・改善課題について、継続課題化しているものが見受けられますので、具体的な改善策を検討すべきだと思います。
- ・教育目標の「情報の高度化にともなう情報処理などの技能」に対して、医療情報技師専攻コースの設置の取り組みを行ったことは評価できると思います。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた結果が適切か	今後の改善方策が適切か
4…適切な評価である	4…十分適切な取組みである	4…十分な効果が期待できる	
3…ほぼ適切な評価である	3…ほぼ適切な取組みである	3…ほぼ十分な効果が期待できる	
2…やや不適切な評価である	2…あまり適切とはいえない取組みである	2…あまり効果が期待できない	
1…不適切な評価である	1…適切とはいえない取組み	1…効果は期待できず、改善を要する	
教育理念・目標	3.8	3.8	3.8
学校運営	3.9	3.9	3.9
教育活動	4.0	4.0	4.0
教育成果	4.0	4.0	4.0
学生指導・学生支援	3.9	3.9	3.9
教育環境	3.9	3.9	3.9
学生募集	4.0	4.0	4.0
財務	3.9	3.9	3.9
法令等の遵守	4.0	4.0	4.0
地域貢献・社会貢献	3.8	3.7	3.8

3 今後の改善意見

- ・医師会の支援・協力のもと、その点をさらにアピールしていき、学校のブランド力の強化につなげてはどうか。
- ・クラブ活動やボランティア活動を奨励してはどうか。
- ・生徒は多くの資格取得を目指して検定に挑戦しているようですが、その内容について、社会や業界が求める人材やスキルと照らし合わせる必要があるではないでしょうか。
- ・生徒募集については、少子化の影響で集めるのが厳しい環境ですが、生徒や保護者に対するアプローチ方法をさらに工夫して改善することが必要と考えます。
- ・退学者を減らすための取り組みを強化して、退学者ゼロを目指してほしい。
- ・経済的に恵まれない家庭もあるので、学費についての検討はもちろん、学校行事、制服のあり方も検討すべきだと考えます。

- ・競合校との競争力を高めるために、施設環境をよくすることが必要ではないでしょうか。
- ・系列高校からの入学者を増やすための方策を考えたらよいと思います。

4 今後の具体的な改善方策

- ・業界ニーズを把握し、カリキュラム変更や実施する検定の選定を行う。
- ・特色となっている専攻コースや併修コースのPR方法の検討や修業年数の検討に着手する。
- ・卒業生の就職先に対するアンケートを活用し、期待される教育内容を把握し、教育内容改善に努める。
- ・クラブ活動を創設し、将来的に地域のイベントへの参加やボランティア活動に繋げていく。
- ・学生募集活動において、高校生や保護者に本校をより理解していただくため、ホームページを活用し、タイムリーに学校生活や行事について情報を発信していく。
- ・学費の減免制度を拡充していく。